

目標設定シート (2009年度)

部局と評価項目・要素

対象部局	経済学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ（学部） コースワークとリサーチワークのバランス（院）
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供（学部） 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供（院） 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供（専院） 初年次教育・高次連携に配慮した教育内容（学部）

○2009年度からの目標

- 2009年4月に「本研究科運用内規」に設定し、院生には「履修心得」で公表した課程博士学位取得プロセスに基づき、博士課程後期課程修了までの5年間で博士学位を取得させるように、指導体制を強化する。
- 受講希望院生の需要に応じて、マクロ・ミクロ計量分析の講義・演習を弾力的に「特殊講義」「特殊演習」で開講可能できるように、大学に必要な予算措置を要求して（PC、更新も含むソフトウェア等の整備）物理的体制を確保し、後期課程へ進学する研究者養成のみならず、前期課程における高度職業人へのデータ分析の演習教育を強化する。
- 研究者養成については、大学院生の研究活動支援の強化と国内外の他大学大学院生との連携教育プログラム（他大学大学院との単位互換協定の締結や現行では授業科目化されていない「経済学ワークショップ」の授業科目化）により、実質化する。エコノミストコースについては本学他研究科との連携により、カリキュラム・プログラムを段階的に再編する。

○指標

- 博士課程後期課程修了までの5年間で博士学位申請者数、取得者数。
- 出口の需要や院生の研究テーマや将来の進路希望に応じ、大学から必要な予算措置を伴う物理的体制整備が得られれば、選択必修科目化し、そのうえでのマクロ・ミクロ計量分析の講義・演習科目開講数、受講者数。
- 他大学大学院との単位互換協定の締結。「経済学ワークショップ」など「セミナー、ワークショップ」の授業単位化。